



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月30日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 水谷 彰洋 (TEL) 03-3433-3311  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	47,362	11.1	866	△0.3	998	△28.8	719	△31.1
2022年3月期第3四半期	42,621	5.6	869	—	1,401	—	1,044	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 873百万円( —%) 2022年3月期第3四半期 1,071百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	33.62	—
2022年3月期第3四半期	48.80	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	50,498	31,140	61.1
2022年3月期	43,429	30,481	69.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 30,850百万円 2022年3月期 30,204百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2023年3月期	—	5.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	64,000	14.9	300	△26.0	450	△56.0	300	△59.6
								14.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細につきましては、本日開示いたしました「2023年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	22,689,000株	2022年3月期	22,689,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,276,656株	2022年3月期	1,277,756株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	21,412,344株	2022年3月期3Q	21,409,977株

(注) 期末自己株式数には、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式(2023年3月期3Q 267,400株、2022年3月期3Q 268,500株)が含まれております。また、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(2023年3月期3Q 267,400株、2022年3月期3Q 269,767株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する主旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日までの9ヶ月間）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症における各種制限の大幅な緩和や政府の経済対策などにより景気回復の動きが見受けられましたが、変異株の出現による感染症再拡大に加え、エネルギー価格及び原材料価格の高騰、円安による物価上昇の継続など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

コーヒー業界におきましては、業務用市場の消費量が新型コロナウイルス感染症における行動制限の緩和により前年同期に比べて増加する一方、家庭用市場の消費量は巣ごもり消費が鈍化したことや、メーカー各社の店頭販売価格の引き上げなども影響し若干の減少となりました。

また、業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場は、ブラジルにおける2023年度の生産量予測の上方修正、コーヒー先物市場の認証在庫量の増加、世界的な景気後退による需要低迷への懸念などにより、高止まりは解消し落ち着きを取り戻しました。一方、為替相場は記録的な円安水準は一服したものの、依然として円安基調であり厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社グループは「コーヒーを究めよう。お客様を見つめよう。そして、心にゆたかさをもたらすコーヒー文化を築いていこう。」という企業理念を果たすため、長年にわたり培った「品質第一主義」のもと、「事業構造の改革」、「収益力強化」及び「グループ総合力強化」を3つの柱とし、新たな需要の創出や生活者のニーズにお応えする商品開発、お取引先の業績に寄与する企画提案型の営業活動を推進してまいりました。

また、2030年を見据えた新メッセージ「珈琲とKISSAのサステナブルカンパニー」を制定し、喫茶文化の継承と持続可能なコーヒー生産の実現を目指すとともに、その一環としてコーヒー生産国との連携や品種開発などの多岐にわたる業務を行う専門部署「コーヒーの未来部」を創設し、サステナビリティ活動を推進しております。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高473億62百万円（前年同期比11.1%増）、営業利益8億66百万円（前年同期比0.3%減）、経常利益9億98百万円（前年同期比28.8%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億19百万円（前年同期比31.1%減）となりました。

<連結経営成績>

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	前年増減	前年増減率
売上高	42,621	47,362	4,740	11.1%
営業利益	869	866	△2	△0.3%
経常利益	1,401	998	△403	△28.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,044	719	△325	△31.1%

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

(単位:百万円)

事業区分	売上高			営業利益又は営業損失(△)		
	当第3四半期	前年増減	前年増減率	当第3四半期	前年増減	前年増減率
コーヒー関連事業	41,662	4,323	11.6	1,280	21	1.7
飲食関連事業	2,764	216	8.5	△182	111	—
その他	2,935	201	7.4	128	△124	△49.3
調整額	—	—	—	△358	△10	—
合計	47,362	4,740	11.1	866	△2	△0.3

(注) 調整額は主に、セグメント間取引取消、棚卸資産の調整額、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

### (コーヒー関連事業)

業務用市場では、業務効率化のためにデジタルツール導入による顧客管理強化やWEB活用による受注自動化などに取り組みました。また、トアルコトラジャや氷温熟成珈琲など差別性の高いコーヒーの販売を推進するとともに、業務用食材の取り扱いアイテム強化による拡販や、飲食店経営者及び開業予定者を対象に商品や提供サービスを紹介するWEBサイトの開設などを行いました。

お取引先の活性化策としては、世界中の品質の優れたコーヒーを提供する月間企画などの提案やお取引先向けコーヒーセミナーの実施、また、シーズン販促企画では店舗のお薦めカレーをラインアップした「推しカレーフェア」などを実施しました。

カフェ開業支援の施策として取り組む様々な立地環境に出店可能なパッケージカフェ「KEY'S CAFE」は4店出店となり、導入店舗数は74店舗となります。

また、コーヒー生豆原料調達コスト及び仕入商材価格の上昇に伴い、前年度に続き10月からお取引先へのレギュラーコーヒー商品及び業務用商材の納入価格の改定を実施しました。

売上につきましては、行動制限の大幅な緩和や外国人入国者の増加などにより、お取引先へのコーヒー及び業務用食材の販売量が増加し、前年同期に比べ大きく伸長しました。

家庭用市場では、顧客へのプレゼン力の強化及び情報共有化、顧客グループ及びチャネル別の販売強化にデジタルツールも活用し取り組みました。

商品展開では新商品として「グランドテイスト 甘い香りのモカブレンド」やコーヒーファンの意見を反映させた「ドリップ オン/インスタントコーヒー 期間限定(秋冬)」などを発売しました。また、業務提携契約を締結している京都の老舗喫茶店「京都イノダコーヒ」ブランド商品を、ドリップ オンやLP(豆)、リキッドコーヒーなどの様々な形態で拡充いたしました。

ギフト商品では、「ドリップ オン」シリーズをはじめ、中元期には「氷温熟成珈琲アイスコーヒー」など人気の飲料ギフトを中心に全27アイテム、歳暮期には「トラジャ&氷温熟成 アロマフラッシュ缶」など多様な飲用シーンにあわせた全20アイテムをラインアップしました。

また、前年度に続き10月からお取引先へのレギュラーコーヒー商品及びコーヒー関連商品のメーカー出荷価格の改定を実施しました。

売上につきましては、商品のメーカー出荷価格の改定により前年同期並みの実績となりましたが、販売個数は減少しました。

原料用市場ではお取引先への販売数量が伸長し、前年同期に比べ増収となりました。

営業利益につきましては、業務用市場を中心に売上が大きく伸長しましたが、原価率の上昇や販売促進費の投下、システム導入費の発生などにより前年同期に比べ微増にとどまりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は416億62百万円(前年同期比11.6%増)、営業利益は12億80百万円(前年同期比1.7%増)となりました。

## (飲食関連事業)

株式会社イタリアントマトは、売上面では時間帯メニューの商品力強化、季節限定メニューの毎月投入、テイクアウト需要への対応等の施策展開を行いました。行動制限の緩和による人流の増加や、前年に比べ営業自粛店舗が減少したことなどから来店客数の回復が徐々にみられ前年同期を上回りました。利益面では売上状況の変化に応じた人員配置や食材の発注、管理を行うとともに、生産性の向上と廃棄ロスの低減に取り組み、人件費、原材料費の適正化を推進しました。また、原材料仕入価格や光熱費などのコスト上昇に伴い全メニューの価格改定を実施、付加価値の高いメニューの投入にも継続して取り組み改善が図れましたが、コロナ影響前までの客数回復には至らず営業損失となりました。同社店舗数は当第2四半期末比1店舗減の152店（直営店51店、F C店101店）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における飲食関連事業の売上高は27億64百万円（前年同期比8.5%増）、営業損失は1億82百万円（前年同期は2億94百万円の営業損失）となりました。なお、営業外収益として各自治体からの営業時間短縮に係る助成金等の収入60百万円を計上しました。

## (その他)

通販事業を営むhonu加藤珈琲店株式会社は、売上面では上期に引続き販売価格を引き上げ、また高付加価値商品を新たに投入するなどした結果、前年同期に比べ微増収となりました。利益面では、更なる販売促進費の引締め、業務の効率化により利益確保に取り組みましたが、大幅な減益となりました。

ニック食品株式会社は、売上面では新型コロナ関連の行動制限緩和に伴う需要増により受注量が回復、年末にかけては価格改定の反動などにより伸びが抑制されたものの、総じて前年同期に比べ増収となりました。利益面では売上伸長に加え、高騰する原材料・資材価格やエネルギーコストを価格改定に反映させ、また製造原価の抑制や販管費の適正化に注力した結果、増益を維持しています。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は29億35百万円（前年同期比7.4%増）、営業利益は1億28百万円（前年同期比49.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資 産)

総資産は前連結会計年度末に比べて70億68百万円増加し、504億98百万円となりました。

流動資産は68億32百万円増加し、332億26百万円となりました。これは現金及び預金の減少(24億72百万円減)、受取手形及び売掛金の増加(37億54百万円増)、商品及び製品の増加(8億87百万円増)、原材料及び貯蔵品の増加(44億52百万円増)などによるものであります。

固定資産は2億35百万円増加し、172億72百万円となりました。有形固定資産は償却が進んだことにより48百万円減少しました。無形固定資産は1億91百万円増加し、投資その他の資産は93百万円増加しました。

(負 債)

負債は前連結会計年度末に比べて64億9百万円増加し、193億57百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べて64億86百万円増加し、174億53百万円となりました。これは支払手形及び買掛金の増加(68億25百万円増)、未払金の減少(2億72百万円減)などによるものであります。

固定負債は77百万円減少し、19億4百万円となりました。これは退職給付に係る負債の減少(1億16百万円減)などによるものであります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて6億59百万円増加し、311億40百万円となりました。これは利益剰余金の増加(5億3百万円増)などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2023年1月30日公表の「2023年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,443	2,970
受取手形及び売掛金	11,625	15,380
商品及び製品	2,474	3,361
仕掛品	194	269
原材料及び貯蔵品	5,976	10,429
その他	758	907
貸倒引当金	△79	△92
流動資産合計	26,393	33,226
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,099	4,091
機械装置及び運搬具（純額）	1,269	1,171
土地	6,570	6,570
その他（純額）	590	647
有形固定資産合計	12,530	12,481
無形固定資産		
のれん	115	141
その他	539	704
無形固定資産合計	655	846
投資その他の資産		
投資有価証券	2,716	2,804
長期貸付金	37	33
繰延税金資産	109	67
差入保証金	767	782
その他	384	413
貸倒引当金	△165	△156
投資その他の資産合計	3,850	3,944
固定資産合計	17,036	17,272
資産合計	43,429	50,498



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,972	13,798
短期借入金	82	304
未払金	2,185	1,912
未払法人税等	259	138
賞与引当金	321	179
その他	1,145	1,120
流動負債合計	10,966	17,453
固定負債		
繰延税金負債	141	205
再評価に係る繰延税金負債	478	478
株式給付引当金	47	60
その他の引当金	3	4
退職給付に係る負債	486	370
資産除去債務	434	448
その他	389	336
固定負債合計	1,981	1,904
負債合計	12,948	19,357
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,106	5,106
利益剰余金	25,317	25,821
自己株式	△2,543	△2,541
株主資本合計	32,509	33,015
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	342	420
土地再評価差額金	△2,736	△2,736
為替換算調整勘定	△9	22
退職給付に係る調整累計額	98	129
その他の包括利益累計額合計	△2,304	△2,164
非支配株主持分	276	290
純資産合計	30,481	31,140
負債純資産合計	43,429	50,498

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	42,621	47,362
売上原価	31,180	35,914
売上総利益	11,441	11,447
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	857	954
荷造運搬費	1,801	1,774
車両費	315	307
貸倒引当金繰入額	8	13
役員報酬	199	202
給料及び賞与	3,502	3,569
賞与引当金繰入額	209	131
退職給付費用	97	74
福利厚生費	591	605
賃借料	723	618
減価償却費	243	211
消耗品費	148	137
研究開発費	138	136
その他	1,735	1,844
販売費及び一般管理費合計	10,572	10,580
営業利益	869	866
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	17	19
持分法による投資利益	99	—
為替差益	13	—
不動産賃貸料	52	51
助成金収入	331	61
その他	42	50
営業外収益合計	560	182
営業外費用		
支払利息	5	5
持分法による投資損失	—	26
為替差損	—	2
不動産賃貸費用	11	11
その他	11	5
営業外費用合計	28	51
経常利益	1,401	998

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
特別利益		
投資有価証券売却益	28	—
特別利益合計	28	—
特別損失		
減損損失	13	—
特別損失合計	13	—
税金等調整前四半期純利益	1,416	998
法人税、住民税及び事業税	231	189
法人税等調整額	121	78
法人税等合計	352	268
四半期純利益	1,063	730
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,044	719

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,063	730
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△30	80
為替換算調整勘定	12	34
退職給付に係る調整額	35	32
持分法適用会社に対する持分相当額	△9	△2
その他の包括利益合計	7	143
四半期包括利益	1,071	873
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,051	859
非支配株主に係る四半期包括利益	19	13

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	37,339	2,548	39,887	2,733	42,621	—	42,621
セグメント間の内部売上高 又は振替高	433	11	444	1,239	1,683	△1,683	—
計	37,772	2,559	40,332	3,972	44,304	△1,683	42,621
セグメント利益又は損失(△)	1,258	△294	964	253	1,217	△348	869

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が営んでいる飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3億48百万円には、セグメント間取引消去△4百万円、棚卸資産の調整額22百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3億66百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	41,662	2,764	44,427	2,935	47,362	—	47,362
セグメント間の内部売上高 又は振替高	531	9	541	1,313	1,854	△1,854	—
計	42,193	2,774	44,968	4,248	49,216	△1,854	47,362
セグメント利益又は損失(△)	1,280	△182	1,097	128	1,225	△358	866

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が営んでいる飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3億58百万円には、セグメント間取引消去△5百万円、棚卸資産の調整額49百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4億3百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。